

【協議案件】

(1) 基幹バス車両の最大値変更について 【資料2】

◆豊田・渋谷線

燃料電池バスの実証運行に向けて車両最大値の変更を行う。

(2) 基幹バスの運行回数の変更について 【資料3】

◆下山・豊田線

イベントに対応した利用促進のため期間を設けた増便を行う。

(3) 基幹バスのバス停の移設について 【資料4】

◆さなげ・足助線

既設場所での家屋建設に伴いバス停移設を行う。

(4) 地域バスの路線改編等について

◆水源東バス 【資料5】

利用状況に応じた経路変更を行う。

◆下山地域バス 【資料6】

利用者の利便性を向上させるため、バス停の新設・移設等を行う。

(5) 地域公共交通確保維持改善事業について 【資料7】

◆平成28年度地域内フィーダー系統確保維持計画

稲武・藤岡両地域バスについて、地域にあった移動手段の確保・維持・

改善のため地域内フィーダー系統確保維持計画を策定する。

(6) 豊田市公共交通基本計画の見直しについて【資料8】

(7) 基幹バス・地域バスの運賃体系について【資料9】

◆共通ICカード導入

◆通学定期に関する定義の変更

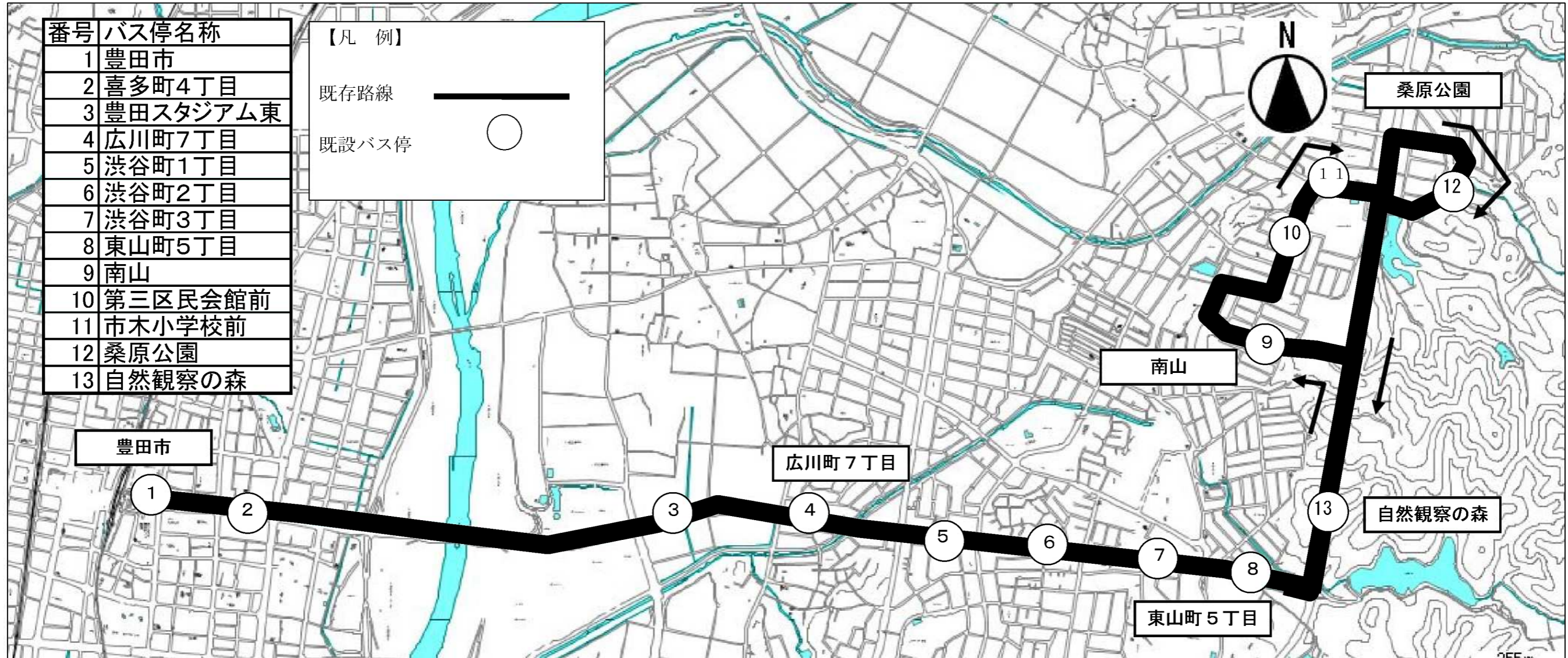
バス路線概要書

資料 2

1 種 別	基幹バス
2 路 線 名	豊田・渋谷線
3 内 容	車両最大値の変更
4 変更理由	FCバス（燃料電池）バスの実証運行を行うため。
5 運行開始 予 定 日	平成27年12月1日（火）
6 運行経路 の 概 要	豊田市～東山町5丁目～南山～桑原公園～自然観察の森（一部）～豊田市
7 運行距離	11.5km（自然観察の森経由） 11.4km（自然観察の森未経由）
8 運行時間帯	午前6時台 ～ 午後10時
9 運 行 日	毎 日
10 運行本数	<p>【平日】</p> <p>上り：東山5⇒豊田市 10便 南山 ⇒豊田市 4便</p> <p>下り：豊田市⇒東山5 10便 豊田市⇒桑原公園 1便</p> <p>循環：豊田市－桑原公園－豊田市 13便</p> <p>【休日】</p> <p>上り：東山5⇒豊田市 8便 南山 ⇒豊田市 2便</p> <p>下り：豊田市⇒東山5 9便 豊田市⇒桑原公園 1便</p> <p>循環：豊田市－桑原公園－豊田市 11便</p>
11 バス停数	13箇所
12 料金体系	基幹バス料金体系 料金（100円～200円）
13 運行事業者	事業者名：名鉄バス株式会社 豊田営業所
	住 所：豊田市神田町2-10 電 話：0565-32-1371

14 市の関与	運行負担金									
15 運行車両	路線バス仕様小型バス（ノンステップ）：1両 路線バス仕様中型バス（ノンステップ）：4両 FC（燃料電池）バス 1両									
16 接続する 公共交通等	鉄 道	・名鉄三河線、豊田線（豊田市駅） ・愛知環状鉄道線（新豊田駅）								
	基幹バス	・とよたおいでんバス（豊田市ほか） 藤岡・豊田線〈加納経由〉 保見・豊田線 小原・豊田線 藤岡・豊田線〈西中山経由〉 旭・豊田線 下山・豊田線 中心市街地玄関口バス 豊田東環状線 ・名鉄バス（豊田市ほか） 矢並線 東山住宅線 豊田東市内線（古瀬間町経由） 豊田市内線 星ヶ丘・豊田線 九久平線 豊田西市内線								
	地域バス等	なし								
	パークアンド ドライブ駐 車場	なし								
17 他路線との 競合区間	・とよたおいでんバス 豊田市～喜多町4丁目（小原・豊田線 藤岡・豊田線（西中山経由） 下山・豊田線） 豊田市～広川町7丁目（旭・豊田線 豊田東環状線） ・名鉄バス 豊田市～喜多町四丁目（豊田東市内線（古瀬間町経由）矢並線 東 山住宅線 九久平線）									
18 経 緯	多くの市民のみなさんに、未来の車を体験をしていただくとともに、市内で幅広いPRを展開したいため。									
19 その他 （車両諸元）	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">名 称</td> <td style="text-align: center;">トヨタ FC BUS</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">全長／全幅／全高（mm）</td> <td style="text-align: center;">10,525／2,490／3,340</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">定員（人）（座席＋立席＋乗務員）</td> <td style="text-align: center;">77（26＋50＋1）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">車両総重量</td> <td style="text-align: center;">20t</td> </tr> </table>		名 称	トヨタ FC BUS	全長／全幅／全高（mm）	10,525／2,490／3,340	定員（人）（座席＋立席＋乗務員）	77（26＋50＋1）	車両総重量	20t
名 称	トヨタ FC BUS									
全長／全幅／全高（mm）	10,525／2,490／3,340									
定員（人）（座席＋立席＋乗務員）	77（26＋50＋1）									
車両総重量	20t									

20 路線概要図

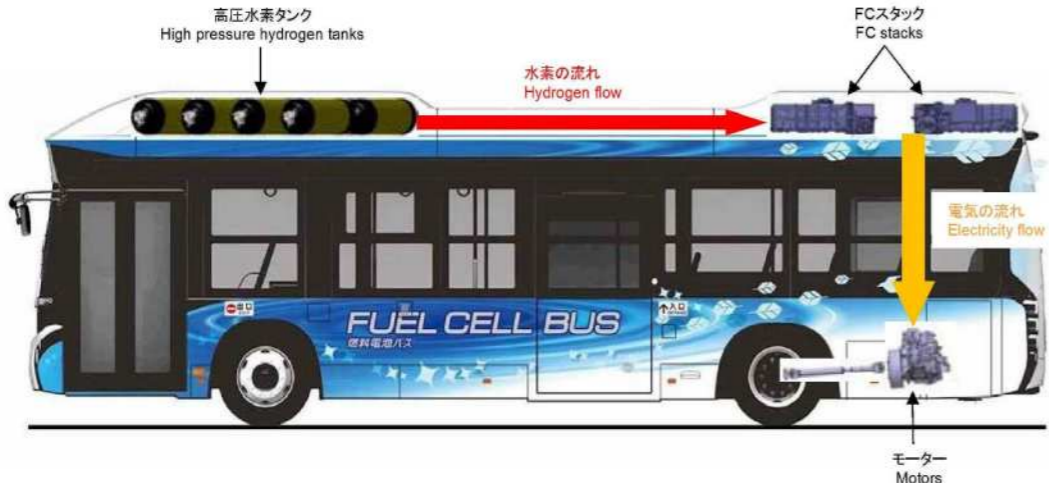


21 参考資料

トヨタ FC BUSのしくみ Principle of Toyota FC Bus

燃料の水素は、高圧水素タンクからFCスタックに供給します。FCスタック内で水素と酸素(空気)の電気化学反応により発電した電力でモーターを回します。トヨタ FC BUSは排気ガスを出さない環境にやさしいバスです。

Hydrogen fuel is supplied from high pressure hydrogen tanks to FC stacks. Toyota FC Bus is driven by electric motors with electricity generated through electrochemical reaction between hydrogen and oxygen (air) in the FC stacks. Toyota FC Bus is good for the environment with no emission gas during operation.



トヨタFCバスV2H (Vehicle to Home) システム Toyota FC Bus V2H (Vehicle to Home) system

燃料電池自動車 (FCV) は電気自動車 (EV) などに比べ、大容量の電力供給が可能であり、災害時の移動電源車としても活用が期待されています。トヨタは、クルマと社会をつなぐ「給電」という付加価値の提供に向けて、FCVや燃料電池バスの外部電源供給システムを開発しています。

With the high electric energy density compared to EVs, FCVs are also expected as a mobile power unit especially in case of natural disasters etc. Toyota develops external power supply system (V2H system) of FCV and Toyota FC Bus toward additional value to link cars and the society.

「外部電源供給システム」を使った電力供給のイメージ図
Image of electricity supply using V2H system

